



池田町の概要

福井県池田町位置図

- 北陸本線「武生」駅から30分
- 福井県と岐阜県の県境の山村
- 国道417号線が徳山ダムをとおって大垣までつながる予定
- 九頭竜川水系足羽川の最上流地域の盆地であり、中山間地域



地域資源連結循環型農業の とりくみ

池田町の概要

- ・ 総人口 3,428人(20年4月1日)
- ・ 高齢化率 38.9%
- ・ 総世帯数 1,105戸(小学校2、中学校1)
- ・ 総面積 19,472ヘクタール
- ・ 森林率 約92%
- ・ 農地面積 450ha(水稻 320ha)
1戸当たり平均面積 0.54ha
- ・ 文化 水海田楽能舞・・・約800年継承
国の重要無形民俗文化財
- ・ 地域指定 過疎・特定農山村・振興・特別豪雪

※ 合併 → 合併特例期間内は、合併しない。

これまでの池田町
「自分のまち」がはずかしい



平成11年「こっぽい屋」オープン

○こっぽい＝池田町の方言で「ありがたい」

○家族のための野菜をおすそわけ

町のアンテナショップ こっぽい屋

店のテーマは「風土 of コンビニ」。
懐かしさを毎日の暮らしに提供する
お店を目指して！



開店直後の様子。多くの人で賑わう。

成功の秘訣（と思われるもの）

○一株増苗・一畝増床の持寄り（生産）

★今作られている安全でおいしい野菜を、もうちょっと増やして出荷しよう！

○池田町の良さをつたえる（精神）

★みんなが「池田のお店」に対して心を一つにして頑張る



成功の秘訣(と思われるもの)

○喜び

- ★頑張った結果が、数字(お金)に。
- ★思わぬ波及効果？！

○充実感・充足感

- ★自分のつくったものが、人や社会に喜ばれる
幸せ感

こっぽい屋

百匠一品のブランド

- 池田町の農業や自然環境はすごい！
- みんなの力を合わせれば、すごい！
- 食べ物をつくるという技術や文化もすごい！

百の匠を一つにする「百匠一品」



これが、すごく楽しいという発見

ゆうき・げんき正直農業

生産における安全・安心を証明し、消費者に届ける仕組み



▲ ゆうきげんき正直農業の農地に設置されている看板

- ◆町独自の基準で運営
- ◆一筆ずつ現地審査
- ◆認証されたら「シール交付」

▼ 現地審査会の様子



ゆうき・げんき正直農業シール



黄色〔低農薬・無化学肥料栽培〕

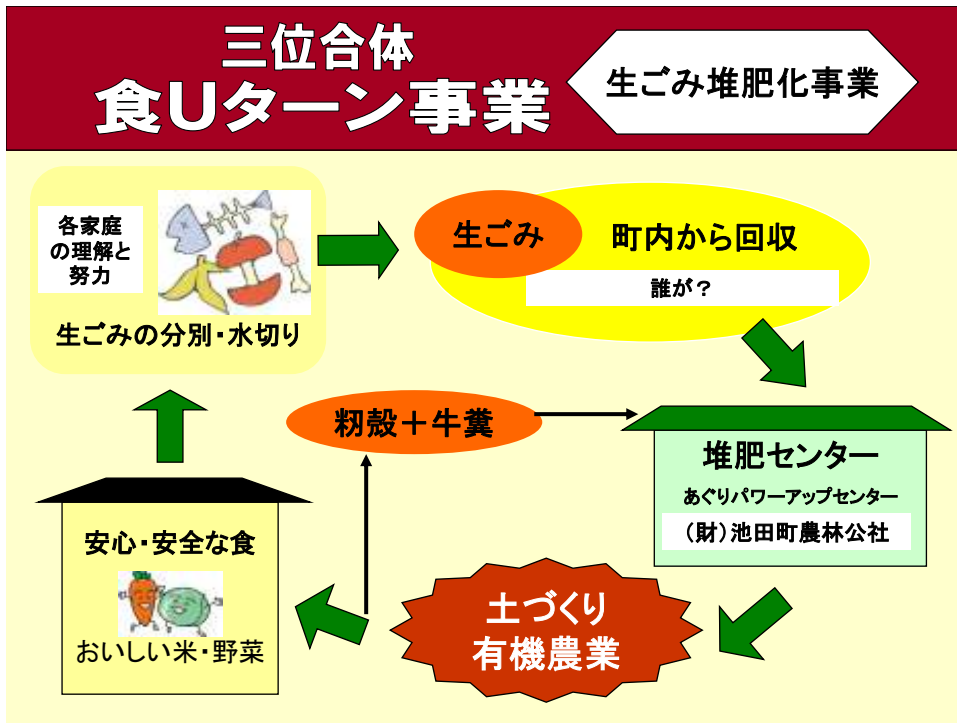
各作物ごとに、農薬は1回まで、除草剤・化学肥料は一切やらない場合に交付する。



赤色〔無農薬・無化学肥料栽培〕

各圃場ごとに、農薬・除草剤・化学肥料を一切やらない場合に交付する。その年の1番最初の申請時に宣言をして下さい。





食Uターン事業

生ごみの回収はどうする？

○おばちゃんたちが、ゆうき・げんき正直
農業・こっぽい屋で頑張っている。



○僕たち、私たちにできることとは？
地域の協働＝ボランティアの回収！

食Uターン事業

生ごみの回収

NPO法人 環境Uフレンズ(会員80名)



回収の様子



回収専用車「あぐりパワー号」

生ゴミ回収大人気の秘訣

①生ゴミ回収ではなく、町内ボランティアドライブ

素敵な町探検、人に感謝される充実感

②一緒にやれば、楽しさ10倍、苦労は半分

老若男女の会話・交流・発見

③社会のために人のために

社会や人に「役立っている」実感

堆肥の商品化

堆肥「土魂壤」



「土魂壤」(どこんじょう)

食Uターン事業で作られた良質な堆肥



園芸用資材
「ゆうきの土」

土魂壤入り
の園芸培土



有機液肥
「ゆうきの液肥」

土魂壤生産過程
での水分を抽出

池田町の地域づくりの方針

- 協働＝力と知恵と心を持ち寄る
- 地域資源の活用（技術・人・もの）
- まちづくりが進む（ダメなまちが、素敵な町へ）



「百匠一品」は楽しい！

相互扶助、自然を生かす知恵やわざ、つくって生きる豊かなくらし、すなわち**農村力**を生かすことが、本当の「持続可能性」

現在、チャレンジ中

「百匠一品」ブランドの確立



「百匠一品」とは、池田町の**粹と匠**をお届けするブランドです

池田町の土・水などの**自然の資源**と、受け継がれてきた**文化の資源**、そして純朴な人々の力によって育まれた匠の一つひとつをつなげた、“和音”のブランドです。

米特産化プロジェクト

「生命に優しい米づくり 運動がスタート」



背景

- 生産条件の不利（地形・高齢化・低収量・担い手不足）
- 米価下落の危機
- 環境負荷が少ない米づくりの推進



池田の環境を活かした価値ある米づくり

運動の取り組みと方針

①特別栽培米の町基準づくりと普及

生命にやさしい米づくり統一基準

②特裁米100%作付達成（3年後）

③消費者も巻き込む認証体制確立

こっぽい屋のお客さん、お米屋さんとともに認
証活動。現地の状況の理解と交流

運動の取り組みと方針

④消費者に信頼される品質確保

農薬を使わないけど高品質を目指す

⑤地域総合力結集（販売一本化）

「池田町米穀 協同屋」を設立

農協・農家・役場が合同の会社を設立

⑥環境と景観の保全

うららの米と炊飯専用水「ままの水」



うららの米



ままの水

環境理想郷をめざした まちづくり運動

環境

農を土台に **環境・景観** への
かえるプロジェクト(環境向上運動)



池田町環境向上基本計画



行動計画
「かえるプロジェクト」

■環境向上基本計画の「特徴」

①ほぼ全世帯に参加してもらう！

1000世帯から100世帯を担当者が
知り合い状態。

②目的は、計画書作成ではない。

環境のことを考え行動する「仲間」
づくり。役場から頼まれたのではなく、
まちの仲間から頼まれたから動く。

池田町環境向上基本計画



一般住民100人が策定（コンサルなし）
9ヶ月延べ88回の、無報酬・手弁当の会議

100人のパートナー
会議のメンバー



環境団体
「環境パートナー池田」
設立

議論するだけでは
なく、自らを「かえる」
ことが、地域や社会
を変え、資源が還る
仕組みにつながる！

自分たちも立ち上
がろう！

■主な活動内容

- ①広報誌「かえる通信」の発行
- ②エコポイント事業
- ③資源化活動の企画運営
- ④環境交流事業の参加



←環境啓発キャラクター
「つかえる君」

①かえる通信の配布

資源がかえる、環境をかえる、地域をかえる、
心をかえる、そのきっかけづくりを！

- 自費負担で発行
・毎月発行
- 全戸配布
世帯に
・1100
- ネットワーク
信することで、
とのつながり
・作って発
地域の人



②エコポイント事業

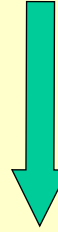
環境向上行動で
ポイント発行



10ポイント
50円分の
商品券



地域限定
商品券の利用



ポイントがもらえる環境行動

- ◆ マイバック運動 ◆ アイドリングストップ
- ◆ 環境学習会 ◆ 食Uターン ◆ 廃油回収

地域商業の活性化
経済の循環

みんなの
エコステーション

空き缶・ペットボトル等の回収機設置



エコポイント事業と連携
リサイクル率向上と商業の活性化

③資源再生アタック100運動

★ボランティアによる資源回収(紙資源)

★資源再生アタック100モデル事業(役場)

- * 紙の全量リサイクル
廃棄重要文書も含む
- * 約80%のゴミ減量実績
エコオフィス運動として普及

★エコステーション実験事業

- * 資源回収負担金の節約
- * 拠点持込方式の実験
(後述)



**役場の
エコオフィス**

紙資源再生アタック100運動

事務所からでる紙ごみを全量リサイクル！！

推進内容

- ① 事務所のごみ24分別
- ② 用紙の合理的利用
- ③ 各事務所に分別ステーション設置
- ④ 各課にエコオフィス推進員選出



年間、約3000kgの紙ごみをリサイクルしています

イベントでのゴミ分別プロジェクト

ゴミを12分別



80%のゴミ減量に成功



中学生が分別ナビゲーターに。

毎年実施

セイタカアワダチソウの駆除活動

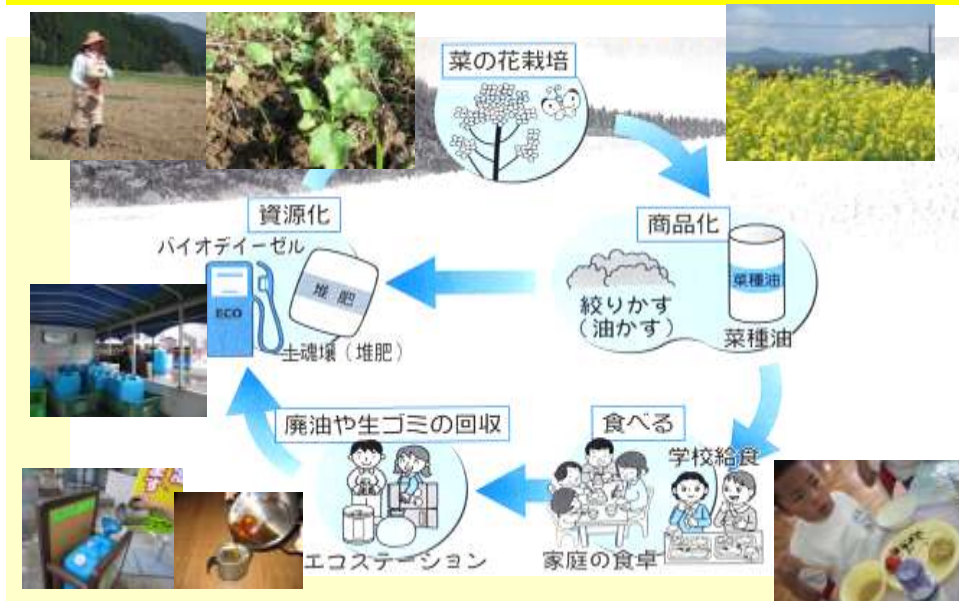
生態系を壊す侵略的外来種。
在来植物を絶滅に追い込む草。



1株5万個の種をつける

任意団体「まちおこし21」が主催。
ボランティアの町民による駆除活動を、
5年前から実施している。

菜の花プロジェクト



いけだエコキャンドルへのあゆみ

老若男女、みんなの力をもちよって、準備活動！



廃油を使い、芯作りからロウソク作り、灯ろうなど、すべてが手作り



みんなで並べました。



そして、いよいよ・・・



いろんな灯りを・・・





「万の灯り、ゆれて心ひとつ」



町民の心と力をひとつにした
感動のイベント！！

「持ち寄る力」=百匠一品の
たまものです。

○自治体環境グランプリ

環境大臣賞

○環境保全型農業コンクール

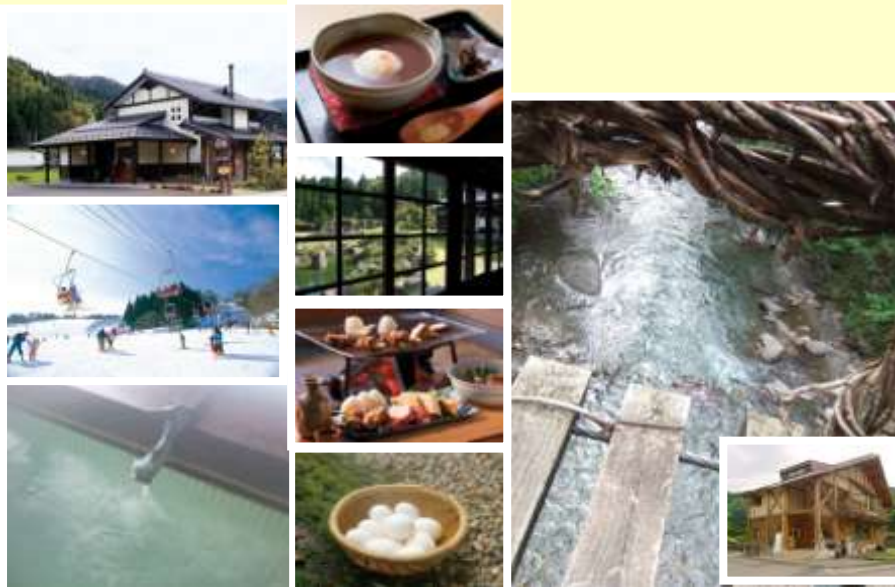
農林水産大臣賞

○環境首都コンテスト

2万人未満の部1位(全体では26位)

農業や環境の取り組みを 生かした地域づくりへ

少しずつ増えてきた観光スポット



新たな観光の商品開発



川遊びもできます！



せせらぎを歩く、緑の香りを浴びる



アドベンチャーボートは大人気！

農業・農村を素材としたグリーンツーリズム

文化資源を生かす



こんにゃく作り体験



パン作り体験



農作業体験

学び・交流と農村力

○ふるさとワークステイ事業

3泊4日程度の滞在をしながら、地域の農業者と交流し、農村の価値を学ぶプログラム。

また、東京から、1年間の若者を受け入れる「緑のふるさと協力隊」事業も実践中。



○日本農村力デザイン大学

農村力という価値を、今の世の中に生かすことを考えて、実践的に生かすことを学ぶ場として、17年度に開催。2泊3日×5回の講義で構成。



農産物のおいしさを生かす「食」

食の商品化・観光化



池田町の食の基準

「化学調味料を使わない」「他の地域のものを使わない(地産地消)」
「添加物を使わない」「ゴミをださない(エコクッキング)」

農と環境に根ざした「風土料理」への取り組み

1 地産地消の素材

- ① ゆうき・げんき正直野菜を使って安全安心を確保
- ② 「こっぽい屋」と連携して、地域の素材を食べていただく仕組みをつくる

2 食のホスピタリティ

食えることを通じた、人と人の交流、農村の価値への理解、心と体の健康づくり

3 風土の食を生かす

- ① 素材のおいしさを損なわないための調理方法
＝化学調味料・添加物を使わない。
- ② 風土に根ざした食を掘り起こし伝えていく
＝高齢者の知恵と記憶からの、食の風土誌づくり

農村力とは？
～人と社会を治癒する力～

農村力とは？

なぜこのポスターが金賞なのか？

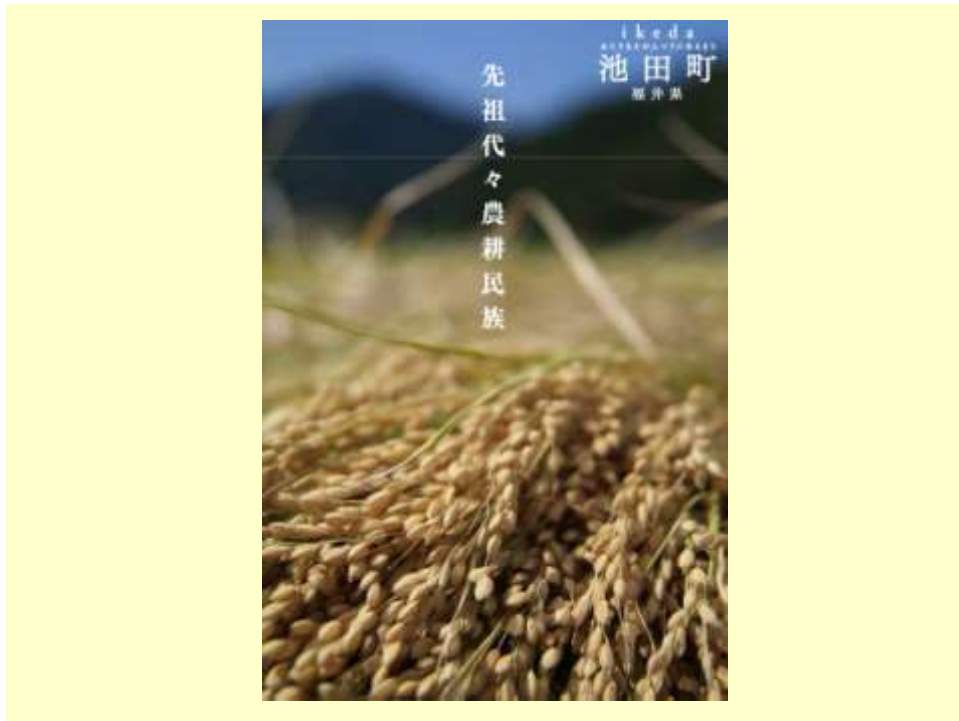


平成19年

日本観光ポスターコンクール金賞受賞















何故、このポスターに惹きつけられるのか？↓表面の価値ではない、本質価値に気づくからなのではないか？↓それを具体的に見抜き、生かす＝農村力デザインが、まさに不可欠になってきている。